

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No. 18

・・・ 目 次 ・・・

・特集：オーストラリアにおける不妊医療事情	1
・第6回日本生殖看護学会学術集会のご案内	4
・平成20年度研究助成のお知らせ	5
・平成20年度生殖看護実践セミナーのお知らせ	6
・各地区で開催する勉強会の支援	6
・新シリーズ：不妊症看護認定看護師リレー寄稿	7
・掲示板	7
・もし不妊看護の現場で行き詰まったら	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8

特集：オーストラリアにおける不妊医療事情



兵庫県立大学看護学部 野澤 美江子

私は、2007年12月16日から2008年2月5日まで、兵庫県教育職員在外研究員としてカーティン工科大学公衆衛生学部のBinns教授にお世話になりながら、パースに滞在しました。今回、不妊治療を行っている施設を見学しそこで働く看護師から話をうかがったので、その報告をさせていただきます。

1. オーストラリア／パースの紹介

南半球にあるオーストラリアは日本と正反対の季節で、滞在したパースでは日中の気温が35度を超える日が度々ある真夏でした（なんとクリスマスには、43度を記録）。しかし、日本と違って湿度が高くないので、体感気温はマイナス5度くらいです。

また、オーストラリアの人口はおおよそ2050万人。人口1000人当たりの出生率は12.02（2007）、合計特殊出生率は1.81（2006）で、近年の好景気による人口増加、及び少子対策助成金制度「ベビー・ボーナス」*の導入によって、上昇の一途をたどっています。

そして、パースは、オーストラリアの中で最も大きな西オーストラリア州（日本がすっぽり入ってしまう大きさ）の州都です。州面積の90%は半砂漠という広大な大地とインド洋に面した美しい海岸を持つことから、オーストラリアの中で最も美しい都市として有名です。

*少子対策助成金「ベビー・ボーナス」とは、2004年から開始された出産した人に\$3000を支給する制度で、「ママのために1人、パパのために1人、そしてもう1人を国のために。」というキャッチコピーを普及させました。

2. 不妊治療施設の現状

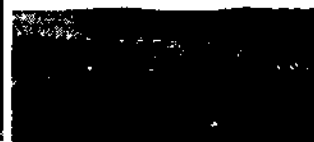
パースにある5つの不妊治療施設の内、今回3施設を見学させていただきました。

1) ベセスダ病院不妊センター

1944年に創設されたこの病院はカソリック系の病院です。緩和ケアにも力を入れており、カフェテリアや外来待合室から美しい河岸（と言っても海のように大きなスワン川です）の眺望が見渡せます。不妊センターは、2006年に開設されました。そこでは、不妊医療チームメンバーは自らを“Fertility Specialist”と呼んでいました。



ベセスダ病院の入口



待合室からの眺望

2) キングエドワードメモリアル病院内にあるコンセプト不妊センター

このセンターは公立病院の中にありますが、私立の不妊センターです。ホームページでは、ユーザーのために不妊の状態を自己診断するためのチェックシートも展開しています。入口に至る廊下には、研究発表したポスターがたくさん掲示され、待合室の壁一面に不妊治療によって誕生したベビーの写真が貼ってありました。



コンセプト不妊センターの入口

3) キングエドワードメモリアル病院不妊外来

この病院は1981年に設立された公立病院で、西オーストラリア州の政策として、子どものいないカップルの治療に当たっています。そのため、治療を受けることのできる患者さんの制限があり、子どものいない異性カップル（すなわち続発性不妊患者は対象外）で、女性が41歳以下に限られます。



キングエドワードメモリアル病院の入口

3 施設の特徴に関する詳細な情報は、表1をご参照ください。

表1 パースにおける不妊医療施設の特徴

	私立病院		公立病院
	ベセスダ病院不妊センター	コンセプト不妊センター	キングエドワードメモリアル病院不妊外来
診療時間	平日7:00-17:00 週末は限定	平日7:30-17:00 週末は限定	月曜13:00-17:00 他は限定
患者の特徴	同性愛カップル、シングルウーマンも含め、対象者の制限なし。 女性の年齢は、45歳まで。	同性愛カップル、シングルウーマンも含め、対象者の制限なし。 女性の年齢は、46歳まで。	条件) ・結婚或いは同居後5年以上経過したカップル ・異性カップル ・子どもがいない ・女性の年齢が、41歳以下。 治療対象は、年間100カップル
治療 ・種類 ・費用 ・結果	全ての治療を実施(卵子の提供含む) IVF \$6,445の内、自己負担\$4,511 妊娠率; IUI平均19%:(38歳以下) 22%~(それ以上) 19% IVF 平均38%:(38歳以下) 39%~(それ以上) 34% 胚盤胞移植平均45%:(38歳以下) 49%~(それ以上) 36% 凍結胚移植30%:(38歳以下) 31%~(それ以上) 27% 出産率20%	全ての治療を実施(卵子の提供含む) IVF \$4,000の内、自己負担は\$459 妊娠率; IVF (36歳以下) 21.9%~(40歳以上) 11.5% 凍結胚移植(36歳以下)17.6%~(40歳以上) 8.5%	全ての治療を実施(卵子の提供含む) 無料
忙しさの指標*	患者数; 外来患者数8-12人程度/日 血液検査17-20人程度/日 IVF30例/月	患者数; 外来患者数12人程度/日 血液検査115人程度/週 採卵3-4人/日 IVF50-60例/月	患者数; 外来患者数16-20人程度/日 (1/3が新患) 血液検査70人程度/月
生殖医療チームメンバーと その人数	医療監督者1 医師3 ラボ監督者1 培養士2 不妊看護師4 不妊カウンセラー1	医療監督者1 医師1 ラボ監督者1 培養士 不妊コーディネーター11 不妊カウンセラー3	医療監督者1 医師1 ラボ監督者1 培養士 不妊看護師2 不妊カウンセラー1

*「忙しさの指標」はあくまでも参考データです

3. 不妊医療における看護の現状

1) 不妊看護師／不妊コーディネーターの役割

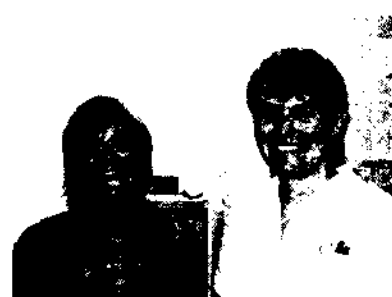
不妊医療に関わる看護者は、“不妊看護師” 或いは“不妊コーディネーター” と呼ばれています。彼女たちは看護師或いは助産師の資格を持っていますが、日本のように不妊看護に関する公的な教育制度は存在せず、就職先でのトレーニングを受けた後、活躍していました。



ベセスタ病院の不妊看護師
リンダとヒラリー



コンセプト不妊センターの不妊コーディネーター
スーとリス



キングエドワードメモリアル病院
不妊外来の不妊看護師 達

The Fertility Society of Australia Reproductive Technology Accreditation Committee の「不妊センターにおける実践の原則」のガイドラインの中で、不妊医療チームメンバーの役割は具体的に明記されています。不妊看護師の役割としては、①看護ケアの提供、② ART 治療の管理、③ ART 治療に関する様々な学問間の連携、④患者さんの代弁、⑤情報と教育の提供、⑥記録管理、⑦薬物管理、⑧看護研究の実施と参加、⑨質保証に参加、⑩ ART に関する法律や規律の理解、⑪専門職としての自己研鑽、が挙げられていました。

2) 看護者の役割の実際

パースの病院の待合室は多くの体外受精を実施していることが信じられない位、人気もまばらで、とても静かでした。また、不妊看護師／コーディネーターは、診察を終えた患者さんとゆっくり向かい合って話をしています。待合室に患者さんが殺到し、看護者は診察の介助や注射などの処置で忙しそうに働いている日本の病院のイメージとはほど遠いものがありました。そこで、不妊医療における看護者の役割について、特に日本との相違点に焦点を当て、感じたことも含めてご紹介します。

(1) 不妊治療のマネージメント

① 自己管理の指導

オーストラリアでは、排卵誘発剤の注射や体外受精サイクルにおける注射は、自己注射で行われています。従って、自己注射の指導を含め治療開始前のガイダンスはとても重要です。

② 検査結果の情報伝達

通院している女性達は、ホルモン値を測定するための血液検査を最寄りの医療機関で行います。結果は不妊治療施設に集約され、看護者から電話で知らされるシステムです。私は、検査結果の情報伝達というこの役割はもっとも大切な役割だと感じました。なぜなら、看護者達は電話で患者さんに検査結果を知らせるためにかなりの時間を使っていたし、この時間が直接患者さんと相互作用できる貴重な機会だったからです。検査結果を伝える際、看護者は使用している薬液量を確認したり、薬液の変更を指導していました。また、患者さんからの薬液についての質問やマイナートラブルの相談にも応じていました。

(2) 他職種との協力と役割分担

体外受精を開始する際は、事前にカウンセリングを受けることが推奨されています。施設によっては、受けてからでないと体外受精が実施できない所もありました。その機会以外に、患者さんが心理的な問題を抱えた時は、看護者はカウンセラーに紹介します。私が一番聞きたかった不妊カップルの関係を改善或いは向上させるためのアプローチに関して看護者に訊ねたところ、私たちはその問題を解決するための技術を持たないから、その問題に関わることができないのよと話してくれました。すなわち、カウンセラーに委譲するという、まさに割り切りすぎると思われるほどの役割分担です。

4. 日本の看護ケアに対する示唆

医療施設で見る看護者は楽しく仕事をしていたし、医療施設を訪れるカップル（殆どがカップルで来院）も大半は悲壮感(?)を漂わせていませんでした。お国柄、国民性の違いも大きいと思いますが、文化も医療事情もオーストラリアと違う日本において、何をどう変えていったらよいのでしょうか。

不妊カップルによりよい看護ケアを提供するために、時間にゆとりを持つことはとても大切です。しかし、その大切さをわかりながらも現実には十分な時間をかけて不妊カップルと関わることができず、ジレンマを感じている看護者も多いのが現状です。そこで、この問題を解決するために、自己注射は最適な方略であると感じました。また、自己注射は、看護者サイドのみならず、患者さんサイドにも大きく貢献すると思います。

次号では、自己注射に焦点を当てて、現状とその課題を紹介したいと思います。

第6回日本生殖看護学会学術集会のご案内

■**メインテーマ**
「カップルの親密さ ～危機を乗り越えるための方略～」

■**ご挨拶**
生殖医療の発展は著しく、現在56人に1人の割合（2005年統計）で高度生殖医療による児が産まれる時代になっています。しかし、治療の選択肢の増加や長期化によって、身体的のみならず心理社会的にも危機的な状況に立たされるカップルも少なくないのが現状です。また、昨今、がんの治療によって生殖機能を脅かされ、不妊治療の対象となるカップルも増えており、不妊に悩むカップルの背景が多種多様になってきました。そこで、実践者・教育者・研究者が様々な知見を出し合い、カップルの危機を乗り越えるための具体的な方略を提案できたらと考えております。

また、今回新たな企画として、事例検討会を用意しました。臨床の中で対応に悩む事例に多く遭遇していることと思います。そこで、日頃感じている看護の悩みや疑問に対する対策を参加者と共に考え、それぞれの職場に帰ってからの希望につながる時間がもてたらと思ひ企画しました。

ぜひ、明石の街においでください。皆様にもまたお会いできるのを心からお待ち申し上げます。

第6回日本生殖看護学会学術集会長 野澤 美江子

■**会期・会場**
期 日：2008年7月20日（日）9:30～17:30
会 場：兵庫県立大学明石キャンパス（〒673-8588 兵庫県明石市北王子町13-71）

■学術集会概要

9:30-10:00	会長講演「カップルの親密さを考える：自己表出を促進するケアを目指して」 兵庫県立大学看護学部 野澤美江子
10:10-11:45	一般演題（口演）
11:55-12:55	会員限定 事例検討会
13:00-13:30	総会
13:35-14:30	一般演題（口演）
14:30-15:00	一般演題（ポスター）
15:30-17:30	シンポジウム「カップルの親密さとがん医療におけるサバイバルの現状」 シンポジスト： （危機的状況におけるカップルの親密さ） 高知大学 人文学部 増田 匡裕 （がん医療と生殖機能） 大阪大学医学部 泌尿器科 辻村 晃 （がん医療と看護） 福井県立病院 外来化学療法室 木谷 智江

■**参加申し込み方法**
郵便振込にて、お手続きください。なお、事前申し込みは6月20日（金）までです。

＜学術集会参加費＞

事前申し込み：会員4500円、非会員5500円、学生（大学院生・研修生は除く）1500円

当日参加：会員5500円、非会員6500円、学生（大学院生・研修生は除く）2500円

お弁当 1000円（近隣に飲食店が少ないため、こちらでお申し込みいただくか、各自ご用意ください。）

＜振込先＞郵便振替：00920-0-320246 加入者名：第6回日本生殖看護学会学術集会

■**一般演題・ポスター演題のお申し込み**
注) 演題申込みの事前エントリーをされた方へ

○事務局から、エントリー確認のメールが届いていますか？ホームページのシステムが不安定で、送信したにも関わらず事務局にエントリーのメールが届いていないという不具合が発覚しました。お忙しい中、お手数おかけして大変恐縮ですが、第6回学術集会ホームページ（<http://jsin.umin.jp/jsintop.html>）をご参照の上、至急再登録をお願いいたします。

○演題抄録受付を4月10日までに延期しました。詳細は、前述の学術集会ホームページをご参照ください。

■**事例検討会の参加お申し込み方法**

学術集会当日、朝9:00から受付にて整理券を配布いたします。テーマは4月に発表しますので、学術集会ホームページ（<http://jsin.umin.jp/jsintop.html>）をご確認ください。

■**お問い合わせ先**

第6回 日本生殖看護学会学術集会 事務局（担当：安成、高見、西尾）

〒673-8588 兵庫県明石市北王子町13-71

兵庫県立大学看護学部 生涯健康看護講座／助産師養成課程

FAX：078-925-9424／学会専用メール：jsfn6@cnas.u-hyogo.ac.jp

H20年度 研究助成を開始します

会員の皆さまの活動支援の一つとして研究助成制度を設けていますので、是非ご活用下さい。たくさんのご応募を心よりお待ちしております。

なお、詳細につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) をご参照下さい。

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき5万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

【研究助成期間】

平成20年8月1日～平成21年7月31日までの1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、13部（正1部、副12部）を学会事務局宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成20年4月1日～6月15日

【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成20年7月中旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は、2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

将来検討委員会担当理事
長岡 由紀子

日本生殖看護学会 ◎◎◎平成20年度生殖看護実践セミナー◎◎◎

現在、教育推進委員会では、平成20年度実践セミナーの準備を進めています。まだ、不確定な部分もありますが、セミナーの予告だけお伝えしておきます。

開催は、第6回日本生殖看護学会学術集会前日の7月19日(土)に学術集会会場と同じ場所です。二日間、生殖看護について充実した時間を過ごしませんか？ 詳細がきまりましたら、お申し込み・お問い合わせ先も含めてホームページ等でお知らせしますので、今のうちにぜひスケジュールの確保をお願いします。

教育推進委員会担当理事 森 忠美

テーマ「不妊治療後に妊娠した夫婦への継続的支援」(仮題)

【研修目的】

1. 不妊治療後に妊娠した夫婦の経験と望む支援について理解する
2. 不妊治療施設と妊娠後の施設との連携について理解する
3. 不妊治療後に妊娠した夫婦への継続的な支援のあり方について考える

【研修計画】

1. 日 時 平成20年7月19日(土) 13:30~16:30
2. 場 所 兵庫県立大学明石キャンパス
3. 参加資格 非会員も参加可能
4. 参加費 会員 無料 非会員 500円(資料代)
5. プログラム

13:30~13:40	オリエンテーション
13:40~14:10	「不妊治療後に妊娠した夫婦の経験と望む支援」(仮題)
14:10~15:00	「不妊治療施設と妊娠後の施設との連携」(仮題)
15:00~15:20	休憩
15:20~16:20	意見交換
16:20~16:30	まとめ

【問い合わせ先】

埼玉県立大学保健医療福祉学部 坂上 明子

電話 048-971-0500(代)

* FAX、メールアドレスは4月以降にホームページに掲載します

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス)等を以下の連絡先までご連絡ください。よろしくお願ひ申し上げます。

教育推進委員会担当理事 森 忠美

教育推進委員会担当理事

森 忠美 mori@faculty.chiba-u.jp

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL:043-226-2410 FAX:043-226-2414

不妊症看護認定看護師リレー寄稿

今号から新しく開始するシリーズです。不妊に悩むカップルへケアする際により専門的な知識や技術の提供が求められるようになり、2002年から不妊看護認定看護師（当時の名称）の教育課程が開始されました。しかし、不妊治療を受けている患者さんが約30万人と推定され、また体外受精実施施設として登録している医療機関が約600施設となった現在、認定看護師の数が十分だとはとても言い難い状況です。そんな厳しい環境の中で頑張っている認定看護師の皆さんへのエールと、現場で試行錯誤しながら不妊に悩むカップルに対応している看護職の皆さんへぜひ認定看護師の活動を知っていただきたいと思い、この企画を始めました。看護職の皆さんには、認定看護師さんをよりリソースとして活用していただきたいです。またこの企画が、ご自身のキャリア・デベロップメントの選択肢として認定看護師の道も考えていただく刺激になったら幸いです。

No. 1

“リレー寄稿スタートにあたって”

歳本ウイメンズクリニック（福岡）

1期生 福田貴美子

寒い冬が終わり、美しい桜の咲く季節となりました。皆さん、こんにちは。私は不妊症看護認定看護師の1期生福田貴美子です。現在、認定看護師は全国に3,383名おり、その内不妊症看護認定看護師は63名となっています（2007年7月現在）。九州エリアは数少ない不妊症看護認定看護師が7名も活動しているという認定密度の高い地域です。そのため同じ方向性をもって活動できる仲間恵まれ、地域の認定看護師のネットワークを基盤として、毎年日本生殖看護学会九州地区勉強会を開催したり、第5回日本生殖看護学会学術集会の開催においても企画委員として力強い協力を得ることができました。

私たち認定看護師は、不妊症看護の質の向上を図るために高い実践能力とそれを基盤としたスタッフナースに対する相談や指導を行なうとともに、日々研鑽を積みながら、医療チームにおける協働と看護の役割の重要性を唱える活動を行なっています。しかし、不妊症看護認定看護師は1施設にその存在があればよい方で、いても1～2名であるため、ポジション的に難しい位置にいたり、自分が看護モデルとなって実践し、スタッフナースの教育を行なう上でもジレンマやストレスを受けることもあります。今回からスタートするこのリレー寄稿は認定看護師としての活動の現状や苦労話等の報告を通して、悩んでいる看護実践家の勇気となったり、読まれた方がそこから看護実践のヒントを得たり、また認定看護師への理解を通して不妊症看護の輪が広がることを目的としています。

不妊症看護は、看護専門領域として2002年から日本看護協会神戸研修センターで教育課程がスタートしましたが、2008年から聖路加看護大学看護実践開発研究センターへ教育機関が移ることになりました。新たな不妊症看護認定看護師の輪がこれからも広がって行くこととなります。そのような理由もありこのリレー寄稿が始まることになりました。リレー寄稿をご企画下さいました兵庫県立大学の野澤美江子先生に心から感謝したいと思います。

今回は、2期生の神谷レディースクリニックの浅野明恵さんにバトンを繋ぎ、北海道の認定看護師の活動を報告して頂く予定です。どうぞお楽しみに。

掲示板

聖路加看護大学看護実践開発研究センター 不妊症看護認定看護師教育課程 2009年度の募集について

出願期間：2008年7月14日(明)～2008年7月19日(消印有効)

試験日程：2008年8月30日(土) 筆記試験

8月1日(月) 面接試験

課程開始：2009年6月1日

*毎週金曜・土曜の2日間が授業日です。ただし、8月末～9月末の1ヶ月間は平日連日の集中授業が行われます。1月～2月の1ヶ月間は実習になります。

課程終了：2010年2月28日

募集人員：15名

連絡先：詳細はホームページ

(<http://rcdnp.slcn.ac.jp/>) をご覧ください。

募集要項郵送希望の方は封筒に A4判返信用封筒 (240円切手貼付、コース名「不妊症看護」、住所、氏名明記) を同封し、下記へ請求してください。

〒104-0045

東京都中央区築地3-8-5 聖路加看護大学2号館
看護実践開発研究センター認定看護師教育課程事務係

Tel: 03-6226-6361 Fax: 03-6226-6387

E-mail: rcdnp-cen@slcn.ac.jp

もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。



事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX (03-5550-2266) もしくは、E-mail (jsin@slcn.ac.jp) で、お気軽にご知らせ下さい。
2. ニュースレターの送付は、安価な運送会社を利用しています。郵送と違い、転居している場合、転送することができません。従って、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡下さい。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘い下さい。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせ下さい。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用下さい。

重要 会費の納入をお願いします

会費の納入はお済みでしょうか?

「平成19年度会費」は、平成19年9月1日～平成20年8月31日までの諸活動に伴う会費です。まだお済みでない方は、納入をよろしくお願いします。なお、第6回日本生殖看護学会学術集会で発表を予定されている会員の皆様は、特に納入をお早めに!!

編集後記

皆さん、今年の冬はいかがでしたか? 私は、一番寒さが厳しい時期に真夏のバースで過ごしたせいか、あまり冬という実感がなく、春を迎えようとしています。滞在中は、暑さでデジカメと腕時計を壊し、皮膚がんが好発する強い日差しで汗疹や日光アレルギーに悩まされました。ようやく皮膚の状態が回復した現在、既にバースの滞在が遠い記憶に感じるのは、やはり年度末の慌たしさでしょうか。

春は、新緑や花々が咲き競う美しい季節です。自然からエネルギーを感じながら、生活をエンジョイしたいですね。私の帰国後の目標は、「ワーク・ライフ・バランス」です。ぜひ、皆さんと一緒にいかがですか? (広報委員:野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成智子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2266

E-mail jsin@slcn.ac.jp(当面、このアドレスを使用)

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>